

TX 8両化

『(鉄道会社は)説明すべき』 『市HPにページを掲載する』



流山市議

小田桐たかし

業計画変更時の『8両化は開業12年後』という約束も守らない、守れなかった理由も説明なし、今後の導入時期も不明：説明責任をはたすべきだ」「市ホームページに特設ページを掲載し、市民的運動を」と指摘・提案を行いました。

井崎市長は「特設ページをつくる」「(TX運営会社は)説明責任を果たすべき」と答弁。市民・利用者の願いに前向きにこたえる姿勢を示しました。



ラッシュ時間はホームから利用者があふれる流山おおたかの森駅

市議選後の6月議会に続き、9月議会でも、TXの早期8両化を求めた小田桐市議。TX開業10年間で沿線自治体人口が22万8千人増加していることを独自調査で告発し、早期の8両化を求めました。

市当局への質疑で、①一日乗車人口の目標を5年前倒し達成、②単年度営業黒字の目標を17年前倒し達成、③8両化導入の見通しが立たないというTX運営会社の言い訳(鉄道運輸機構への6千億円強の残債)は通せず、そもそも借金の前提条件が『8両化』だったことが明らかにになりました。

小田桐市議は、「利子を含め本市に125億円も出資させながら、『8両化で開業』という約束も、事

H27年
9月議会

「沿線自治体全体で22万8千人の人口増加。
8両化は待ったなし」小田桐市議追求

8月で開業10周年を迎えたつくばエクスプレス(TX)。新聞報道でも、1日の平均輸送人員が、05年度15万人から14年度では32万6千人に増加し、単年度の営業収益は昨年度で404億円余と、毎年、過去最高を更新していると報道。深刻な混雑緩和に欠かせない8両化を拒む理由はいよいよなくなっています。

災害ボランティアに行ってきました 常総市

関東・東北地方を襲った台風・豪雨災害。
日本共産党流山市議団は、初石駅前での街頭募金など救援活動を14日からスタートさせ、18日には茨城県常総市に、小田桐たかし市議が災害ボランティアとして参加。
「避難所にある荷物を自宅へ持ち帰りたい」との声にこたえ、お手伝いしました。

←避難所となっている茨城県立水街道第一高校の柔道場。小学校時代の同級生とばったり遭遇する場面も。今後の住宅確保などの相談にのり、り災証明書や住宅外壁を消毒するための噴霧器をお届けする段取りを行いました。避難者から話を聞く石川栄子常総市議（右）



→小貝川近くの住宅。水位の高さの跡が残っています。（矢印）



→小田桐市議が荷物運びをお手伝いした家の一階部分。住宅に入り込んだ水の力で重い冷蔵庫が持ち上げられました



→道路脇に建てられたフェンスもなぎ倒されました

※ボランティア参加の場合は下記の連絡先へ。持ち物や集合場所、活動内容等ホームページをご確認ください。

□茨城県災害ボランティアセンター（7:00～17:00）代表番号：080-5064-9543、080-5064-9327

□常総市災害ボランティアセンター（7:00～17:00）代表番号：090-6568-6333、090-6568-6334

日本共産党では、現地に支援センターを設置し、救援募金や物資、ボランティアも受け付けています。

詳しくは小田桐市議まで。